

ANSI C63.10:多種多様な免許不要無線機器の 法令順守を認定する試験手順

性能試験に必要な全ての参照規則を1つに集めた新規格

米

国規格協会(ANSI)電磁両立性認証基準委員会(ASC)C63®と米国電気電子学会(IEEE)が2009年9月10日発行したANSI C63.10「免許不要無線機器のための規格」は、種類の多い免許不要機器の連邦通信委員会(FCC)法規と規則に基づく認証に必要な測定手順を寄せ集めて1つに編集したものである。以前は、FCC規則やFCC告示、ナレッジデータベース(Knowledge Data Base)、規則作成文書、ANSI C63.4、その他色々なものの異なった場所に書かれた情報源を用いて、これらの手順は決められていた。

免許不要無線機器の認証試験手順が書かれているANSI C63.4の13項は、市場に出回っている様々な新しい無線機器の認証をするには、もはや十分でない。適当な時期に、C63.4の13項の一部分または全部を移動させても良いかの検討が、ANSI C63.10でカバーされているか、他のところで利用されていないかという視点で行われるだろう。また、C63.4の試験用機器や試験サイトの仕様など、多くの部分がC63.4の2009年版に引き継がれた。

電気通信認証機関協議会(TCB Council)によると、この種の規格作成を始めた理由は、FCC規則15章の意図放射機器の試験と認証方法は、実際の試験の方法が異なった文書や方針に広く散らばっていて不明確でわかりづらいからである、とTCB Councilの実行委員会の副委員長であるDennis Ward氏は言った。あちこちに散らばった文書を全て1つの規格に取り入れな

ればならないと、TCB Councilは考えたのである。

これを実現するため、TCB Councilは無線認可コンサルタントのArt Wall氏に主査を務めてもらうよう契約を結んだ。この規格作成作業は、C63の後援のもと開始した。「前提として『新しい手順は導入も作成もしないことになっている』と、Ward氏は言った。

『TCB Councilが最初に期待したより手間取ったが、これは今までで最も速い規格作成の一つだ。基本的に現行の手順を採用し、それらを1つのバスケットに入れるのだから当然だが』と、Ward氏はいった。『既存の規定を見直した些細な企てがいくつか紹介されたが、Art Wall氏は規格作成の目的を維持して優れた仕事をした。このため、前に説明した散らばった複数の文書が、非常に使いやすい規格として入手できた。』

これらASC C63®規格の購入を考えている、消費者、生産者、主管庁他の方々のために、Interference Technologyは、試験所運営に与えるこの規格の意味と効果に関するパネルディスカッションへの参加を専門家に依頼した。

参加者は、Art Wall氏とDennis Ward氏に加えて、下記の通りである。

Mark Briggs氏、Desmond Fraser氏、Don Heirman氏、Werner Schaefer氏、Bill Stumpf氏

ANSI C63.4および/またはANSI C63.10の大きな更新が必要だと決定した要因は、何であったか。

STUMPF:ANSI C63.10は、新しい規格である。